

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690800046		
法人名	社会福祉法人 端山園		
事業所名	グループホームいまくまの 3F		
所在地	京都市東山区今熊野北日吉町61-10		
自己評価作成日	令和5年2月28日	評価結果市町村受理日	令和5年5月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JkyosvoCd=2690800046-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	京都府京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1F
訪問調査日	令和5年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設している小規模多機能事業所との一貫した利用を通じて、住み慣れた地域で生活し続けることの担い手として、地域に貢献することができています。これまでコロナ禍の影響により、地域との交流が途絶えていましたが、今年度は、ズームを通じて、地域住民の方々とのラジオ体操だけでなく、児童館の子供たちと交流する機会を設けることができました。またご利用者の方々に作成して頂いた手縫いの雑巾を今年度は児童館・障害者福祉施設・支援学校・災害地など、複数の団体へ寄付することができました。小規模多機能事業所では、ご利用者が作成された貼り絵の作品を出品展に応募し、さらに近隣のカフェにも飾らして頂き、たくさんの方々には披露させて頂くこともできました。来年度はグループホームと一緒にこの創作活動を取り組んでいければと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2Fに同じ。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は誰でも目にすることができるよう玄関口に記載したものをかけている また、理念をもとに各フロアの目標を作り、会議の議事録に理念と共にのせて意識付けし、毎月の会議にて目標の達成状況を確認出来ている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	社会福祉協議会と連携し、地域の方々とオンライン体操教室に一部のご利用者が参加されている。ご利用者に作成して頂いた雑巾を近隣の事業所等に寄付している。京都女子大学からクリスマスコンサートのDVDを頂き、鑑賞会を開催した。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は児童館だけでなく、障害者福祉施設・援学校・被災地などにご利用者に作成して頂いた雑巾を寄付しました。贈呈会を設けて、ご利用者にも実感して頂いている。東山区地域福祉シンポジウムにて事業所の実践報告を発表を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度と同様に、コロナウイルスの感染拡大の際は、書面形式等で開催し、2箇月に1回開催している。運営推進会議を通じて、昨年からの取り組んでいる雑巾の寄付活動の寄付先を紹介して頂いた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	看取りケアの取り組みにあたり、京都市へ記録などの書式の確認等を行いながら実施する。ご利用者が作成して頂いた雑巾の寄付先(支援学校)を紹介して頂いた。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事故苦情身体拘束虐待防止委員会の議事録に身体拘束について記載しており、毎月目にふれるようにしている。何気ない日常の行為が拘束に当たっていないか、フロア内で常に話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や定期的な勉強会で学ぶ機会を設けている。スタッフ一人ひとりに「尊厳の保持」における自身のケアのついて、振り返りシートを活用し、改善点がないか取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は制度について研修で学ぶ機会はあるが、入居前に後見制度を利用されているケースがほとんどで、実際には携わっていない。小規模多機能事業所では制度の申請に関わる必要な事項に関わり、申請の支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居事前に重要事項説明書及び契約書を説明し、同意を得ている。また改定の際も、その都度説明を行い、了承して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	前年度と同様に、来所時や運営推進会議議事録同封の意見書にて要望等は聞いている 頂いた意見は運営推進会議で報告し、反映できるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議や定期的なヒヤリングで意見を聞く場を設けている。運営に関する意見については委員会や会議で検討している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己目標を継続して取り組んでもらい、達成状況や今後の課題等についての話をしている。介護休暇や通常の勤務が負担にならないようにシフト管理等を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画に基づいて法人内外の研修に参加している。職員主催の勉強会は定着し、実際のケアの場面で必要に感じたことを、テーマを設け学び合っている。外部研修は掲示板で紹介している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他法人との合同の統一研修へ年間を通じて参加している。管理者は第三者評価委員に従事し、いしだたみの会・東山区事業所連絡会・東山区運営協議会に参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より、不安が残らないよう複数回連絡を取り合い、要望等を確認している。また、職員間で情報共有し安心して過ごしてもらえるよう関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話連絡以外にもメールを開設し、普段の様子などの報告を行っている。その際に要望等も伺い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族と相談しながら、よりよい暮らしの継続ができるよう耳鼻科等の専門医療機関受診や訪問歯科・マッサージ等の他サービス利用の提案も含め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや裁縫等家事部分を担って頂いている。誕生日や季節折々のイベントをご利用者の方々と一緒に楽しませて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話やLINE等を利用しながら話しやすい環境を作っている。 ご家族には居室環境を一緒に考えて頂いたり、差し入れや受診対応の協力で役割を担って頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染症の状況を見ながら、以前の住まいに外出されたり、ドライブで馴染みの風景を楽しんで頂いた。電話やメールなどの連絡ツールを使用し、ご家族等と連絡を取って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	前年度と同様に、ソーシャルディスタンスを守りながらも入居者同士の会話が持てるような席の配置や、挨拶ができるようにスタッフが間に入っている。季節折々の行事や誕生日をご利用者同士で祝い楽しむ機会を催している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナもあり交流には至らないが、事業所近くにお住まいの家族に行事や避難訓練に参加の呼びかけをして、関係性を継続している ご家族から定期的に連絡があり、故人の思い出を共有している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	前年度と同様に、本人の思いの把握に努め、毎日のカンファレンスで情報共有しプランに反映させている。声に出せない方は、今までの暮らしを参考にご家族から聞き取っている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回面接時や日常の中で聞き取った内容から、習慣にされていたことを継続できるよう工夫している。ご自宅で大事にされていた人形をリビングに飾らせてもらい、馴染みのある雰囲気作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のカンファレンス等でご利用者の状況等を共有し、一日の過ごし方について話し合いを行っている。看取り期に入られた方などのケースについても、時間や声掛け、方法について工夫している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	前年度と同様に、毎日のカンファレンスや定期的な会議でモニタリングを行い、医療関係の情報提供も合わせ、反映させている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はケース入力やカンファレンスノートに個別に記録し、共有している。またカンファレンスや会議でケアの実践状況の確認、見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今年度はコロナ緩和時にご家族の協力もあり10数年自宅に帰宅出来なかった方の帰宅支援を行う事ができた。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ズームを通じて、地域住民の方々と体操に参加している。地域の障害者福祉施設や支援学校等にご利用者に作成して頂いた雑巾を寄付している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域の診療所・訪問歯科・訪問看護ステーションと連携し、病状の安定に努めている。職員は歯科衛生士から月に1回口腔ケアの研修を受講している。専門科への受診はご家族に同行して頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護にて健康チェックを行い、療養上のアドバイスを頂いている。訪問、診療所と連携を通じて、夜間の急変時の対応も行えてる。また小規模スタッフの看護師にも適宜手当等の協力を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のソーシャルワーカーや担当看護師・医師と情報共有し、退院時にはカンファレンスにて施設での生活が送れるよう必要なりハビリも相談できている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の指針をご家族に説明を行っている。終末期には診療所と訪問看護師と連携し、ご家族の意向を確認し、看取り指針を改めて説明し、ご家族に同意を得て、看取り支援を行っている。寝具を準備しており、ご希望がある際は夜も一緒に過ごして頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	フローチャートを作成し備えている 消防署によるAED講習会を毎年行い参加している。また高齢者特有の様々な急変時について勉強会を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	福祉避難所に指定されており、3日分の食料品などの備蓄品を備えている。災害対策マニュアル及びBCPを作成し、火災訓練及び土砂災害の訓練を行っている。東山区の防災担当の方に災害時の指示を受けている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修や定期的な勉強会で学ぶ機会を設けている。スタッフ一人ひとりに「尊厳の保持」における自身のケアについて、振り返りシートを活用し、改善点がないか取り組んでいる。入浴や排泄の同性介助に可能な限り努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床や就寝時間、毎日の服選び、観たいテレビ番組やティタイムの飲み物をセレクトして頂いている。 日常の様々な場面で自己決定ができるように、話しやすい雰囲気を中心掛け、本人の希望に沿うよう過ごして頂いている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	上記項目と同様に、起床や就寝時間は可能な限り一人ひとりのペースに合わせている 豊国廟の境内散歩や趣味の読書、レクリエーションでは食べたいものをお聞きし希望に沿って支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者が自分で服を選べるように準備し、髭剃りや化粧品の声掛けを行い、身だしなみを支援している。 女性ご利用者は髪留めで気分を変えて頂いている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的におやつレクを取り入れ、手作りのおやつを楽しんでもらっている。 また家族の協力のもと好物を用意している。 見た目と食べやすくてできるようにワンプレートなどの食器を使用し、食欲増進に努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事及び水分摂取量が一目でわかるよう記録している。ビタミン・カリウム等の栄養面で不足がみられるときは、主治医と相談し、好んで召し上がってくださる嗜好品等の差し入れをご家族に用意して頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科往診や委員会活動で日々の口腔ケアに取り組んでいる。できるかぎりご自身で口腔内を清掃して頂けるように声掛けにて促している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表で排泄パターンを把握し、適宜トイレ誘導等を行っている。布下着を着用されている方には、夜間や下剤服用時にパットを着用して頂くなどのフォローをしている。下剤服用以外にも乳製品等やマッサージを行い、排泄を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤服用以外にも、水分補給・乳製品の活用・腹部マッサージや散歩や体操を行い、排泄を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在は昼間の入浴を希望される利用者がほとんどで週2回入浴されている。お好みのシャンプーや化粧水がある方はそのシャンプーや化粧水を使用している。できるかぎり同性介助に努めている。ご希望の方には足浴も実施している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前年度と同様に、足浴の実施やリラックスできる音楽を流す等、工夫している 利用者の生活習慣に合わせ就寝時間を考慮し対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	変更があればカンファレンスノートに記載し、薬チェック表にマーカーで変更がわかるようにしている また服薬担当を決め、服薬前に他の職員と確認してから服薬している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ・雑巾の作成などの家事や所持品の記名を担ってもらっている。趣味の将棋や読書、裁縫、季節毎の飾り付けの他、今年度はスノードーム作りにチャレンジして頂いた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常生活の中で、豊国廟への散歩を行っている。コロナ感染状況の様子を見ながら、ドライブを行っている。ご家族の協力のもと、専門機関への受診やご自宅へ一時帰宅されている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部のご利用者はお金を所持されている コロナ以前は日用品を地元商店街に買い物に出かけていたが、現在は職員が代理で購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一部の利用者は携帯電話を所持されている。他のご利用者も施設の電話を取り次いで家族との電話を楽しみにされている。 ハガキに何か一言を書いていただき、家族に送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	飾り物や花で季節を感じていただいている また、熱帯魚水槽の設置や静かな音楽を流しリラックスできる環境を作っている リビングやトイレ等も細目な清掃を心がけ気持ちよく使って頂ける様、衛生面は特に配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関横にソファを設置し、干渉なく過ごせるよう配慮している。リビングでは、気の合ったご利用者同士のおしゃべりを楽しませている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	前年度と同様に、居室の設えは家族の協力のもと、自宅の雰囲気にならぶよう写真や趣味で作られた作品を飾り心地よい空間を心掛けている 壁飾りは臥床状態でも見れるよう工夫している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内ではできるだけ干渉せず、毎日の服選びやテレビの視聴、読書をされている。 転倒リスクに配慮し、家具の配置やクッション性のカーペットを敷く等工夫して対応している		